



4910853612410 00124

今日のストレス

明日の病気

鬱症状が泌尿器絡みの症状を引き起こすことはよく知られている。EDなどはまさにその代表格。ところが、泌尿器絡みの病気が鬱症状を引き起こすこともあるのだ。「慢性前立腺炎」という病気。30〜40代に増えているという。

Hさん(41)は1年ほど前、不眠に悩まされていた。日中は集中力も出ず、だるさが抜けない。心療内科で精神安定剤や睡眠導入剤を処方してもらっていた。

そういうするうちに、脚の付け根の「そけい部」に痛みを感じるようになった。消化器科を受診したが、そけいヘルニアではなかった。「もしかしたら」と泌尿器科に紹介され、検査の結果、ようやく「慢性前立腺炎」との確定診断を得た。しかも、それまでの鬱症状も、この前立腺炎が原因の可能性があるというのだ。

「慢性前立腺炎は、圧倒的に

「座り仕事」の人に多い病気。長時間、座り続けることで前立腺が圧迫され、血流が悪化して炎症を

起こします」と語るのは、飯田橋中村クリニック院長で泌尿器科医の中村剛医師。陰囊と肛門の間辺りに鈍い痛みや重さを感じることが多いが、病気が進展するとHさんのように症状がそけい部や脚に広がることもあるという。

しかもこの病気、単に前立腺の症状だけにとどまらず、精神的な

症状に発展することもある。「前立腺関連疼痛(とうつう)症候群と呼ばれるもので、いわゆる「鬱」の症状を併発することがあり、心理テストから前立腺炎が見つかることもある」と中村医師。持続する不快な症状が、徐々にメンタル面にダメージを与えていくのだ。

治療法は前立腺炎の治療に準じ

前立腺の症状だけにとどまらないうちから鬱症状を併発する可能性も……

慢性前立腺炎

る。菌があれば抗生物質で排除。中村医師のクリニックでは、生薬なども効果的に用いた治療が行われる。

「アメリカなどでは、射精をする効果があがる」という意見もあります。ただ、射精をすれば治るといえるものではなく、「しないよりはしたほうがいい」といった程度(中村医師)

Hさんがせっせと射精に励んだかどうかは不明だが、前立腺炎の治療が功を奏して、今では睡眠薬ナシで眠れるようになったという。

座り仕事の皆さん、くれぐれもご用心を。(長田昭二)



イラスト・メソポ田宮文明

(長田昭二)